

政策の基本	人づくり
人づくりの視点	文化・スポーツを通じた人づくり

1 プロジェクトの概要

目 標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本県の優れた文化に親しむことを通じて、ふるさとへの愛着と帰属意識を高めるとともに、世代間のつながりを深めていけるよう、文化を通じた人づくりを進めます。 ○ 世代や地域を超えた交流を広げ、つながりを深めながら、健やかに生涯を楽しめるよう、スポーツを通じた人づくりを進めます。
取組の方向	<ul style="list-style-type: none"> ☆地域文化を通じた心豊かな人づくりと世代間交流の促進 ☆スポーツによる健やかな人づくりと世代間交流の促進

2 成果指標等の状況

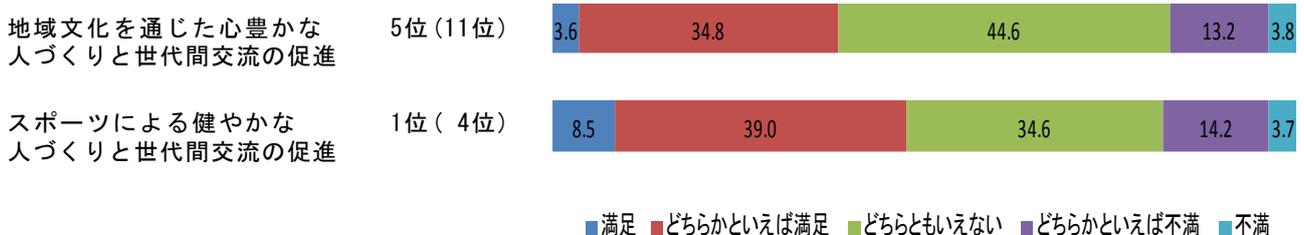
成果指標	基準 ・全国平均 ・全国順位	H22	H23	H24	H25	H26	目標 H27
①芸術・文化活動等参加率	48.1% (H22)	48.1%	54.1%				県民2人に1人以上の参加を目指す
出典：県政世論調査	達成見込	—	☀️				
②スポーツ活動実施率	34.2% (H22)	34.2%	37.1%				県民2人に1人以上の実施を目指す
出典：県政世論調査	達成見込	—	☀️				

(注) 目標達成見込の判断 ☀️ : 概ね順調 🙄 : やや遅れている ☔ : 遅れている

【成果指標の分析】

- ① 文化の鑑賞・発表等を行う機会の提供充実に努めた結果、参加率が上昇しました。
- ② 総合型地域スポーツクラブが20市町で48クラブ開設されるなど、各地域でスポーツを楽しむ環境が整備されたことによって、実施率が上昇しました。

【県民満足度調査結果】



※順位は、「満足」及び「どちらかといえば満足」と回答した割合をもとに順位付けした。()内は昨年度の順位。

3 主な取組成果

【成 果】
<p>☆地域文化を通じた心豊かな人づくりと世代間交流の促進</p>
<p>○文化を通じた心豊かな人づくり</p>
<p>《主な取組》</p> <p>①文化の鑑賞・発表等の機会の提供 県民が身近に文化に触れられるよう、美術館・博物館での充実した企画展を開催しました。このほか、県庁舎1階県民ロビーにおいて「マロニエ県庁コンサート」を開催し、若手演奏家に発表の場を提供しました。(平成23年度:6回) また、このコンサートにはネーミングライツを導入しており、収入は文化振興基金に繰り入れ、県の文化振興に活用しています。</p>
<p>○文化活動を通じた地域における世代間交流の場づくり</p>
<p>《主な取組》</p> <p>①地域の芸術家や伝統芸能保持者等の育成や各種文化芸術活動への支援 ジュニアピアノコンクール、コンセル・マロニエ、ワガノワ・バレエ・アカデミーレッスンなどのコンクールを開催し、新たな芸術文化の担い手の育成を行いました。</p> <p>②文化振興基金の活用による地域の伝統的行事等の保存・継承活動への支援 県内各地域における伝統芸能(獅子舞・神楽・太鼓等)の保存・継承活動のため、文化振興基金を活用して15の事業に合計約4,300千円を助成しました。</p>
<p>☆スポーツによる健やかな人づくりと世代間交流の促進</p>
<p>○スポーツを通じた健やかな人づくり</p>
<p>《主な取組》</p> <p>①総合スポーツゾーンの整備検討 県民が使いやすい総合スポーツゾーンの実現に向けて、様々な検討を行いました。</p> <p>②障害者がスポーツしやすい環境づくり 本県における障害者スポーツ活動の今後のあり方について協議し、環境づくりに向けた課題を整理しました。このほか、障害者スポーツ大会やスポーツ教室の開催、指導員等による障害者スポーツ活動の支援を行いました。</p> <p>《その他》</p> <p>①第69回国民体育大会冬季大会スケート・アイスホッケー競技会の本県招致 東日本大震災からの復興を遂げる本県の姿を全国に発信するため、平成26年に開催する冬季大会の招致を進めました。</p>
<p>○気軽にスポーツを楽しめる世代間交流の場づくり</p>
<p>《主な取組》</p> <p>①総合型地域スポーツクラブの育成・支援 クラブの育成を支援するため、創設・運営の核となるクラブマネジャーの養成、市町やクラブ等の巡回訪問、啓発活動などを実施しました。 これにより、クラブマネジャーの数(修了者)は前年に比べて54人多い792人となりました。また、各市町1クラブ以上の開設を目標に、未設置市町を支援したところ、1市町、4クラブ多い、20市町48クラブとなりました。</p> <p>《その他》</p> <p>①第27回全国健康福祉祭とちぎ大会(ねんりんピック栃木2014)開催に向けた準備 市町、関係団体、学識経験者等による検討を踏まえ、大会の基本的事項を定めた基本構想を策定することによって、開催に向けた関係者間の意思統一が図られました。</p>